

No.					市立甲府病院 機能仕様書
Lv1	Lv2	Lv3	Lv4	Lv5	要件項目
29	1				ログイン機能
29	1	1			個別ID・PW管理が行えること。
29	1	2			IDごとの操作範囲制限が可能であること。
29	2				患者検索機能
29	2	1			患者ID、患者名、年齢、生年月日、性別での検索が可能であること。
29	3				画像閲覧機能
29	3	1			閲覧端末にて画像の取得および表示が1回の操作で行えること。
29	3	2			眼科画像においてDICOM画像を使用する場合、閲覧端末にてWindow Level/Widthの階調調整およびプリセット設定が行える機能を有すること。
29	3	3			眼科画像においてDICOM画像を使用する場合、閲覧端末にて画像の線形階調、非線形階調処理、白黒反転が行える機能を有すること。
29	3	4			閲覧端末にて、取込んだ眼科画像に対して画像分割表示、インデックス表示、表示順ソート、原寸表示、画像拡大・縮小、画像反転・回転、画像情報表示が行える機能を有すること。
29	3	5			眼科画像においてDICOM画像を使用する場合、撮影装置種別毎に、初期表示時の画像表示サイズが設定可能であること。
29	3	6			個人情報保護対応機能として、ユーザーID、パスワードによるユーザー認証機能、ユーザー毎に操作することができる機能を制限するアクセス制御機能、操作の履歴をサーバ上のログに記録する監査証跡機能を有すること。
29	3	7			iPadにて画像の閲覧ができること。
29	4				検査画像編集機能
29	4	1			画像の回転（90°、180°、270°回転）、画像の反転（上下、左右）、画像の切り出し（囲まれた部分以外を削除）、マーキングが可能であること。
29	4	2			画像に付属する属性情報（患者ID、検査日、検査時刻、検査記述、検査種）の変更ができること。
29	5				所見レポート機能
29	5	1			閲覧端末にて入力された所見データおよび検査画像を保存できること。
29	5	2			保管される所見データおよび検査画像をXML、HTMLまたはPDFフォーマットにて出力し、全科の電子カルテなどへ送信する機能を有すること。
29	5	3			所見レポートは、全科の電子カルテなどと連携し、患者属性情報等を所見レポートに表示ができること。
29	5	4			所見レポートからの操作により、今回画像と過去の画像とを閲覧端末にて同時に表示することが可能であること。また、閲覧端末にて、任意の検査を選択することにより、今回画像と過去画像とを同時に表示することが可能であること。
29	5	5			所見レポートからの操作により、該当検査の撮影画像が閲覧端末に自動的に表示されること。
29	5	6			所見レポートには閲覧端末からの操作により検査画像を貼り付けることができ、所見レポートとともに一画面に表示できること。保存においても、検査画像を所見レポートの一部として保存ができること。
29	5	7			所見レポートへの検査画像の貼り付け時には、閲覧端末にて実施した画像表示調整結果を所見レポートとして表示・保存できること。
29	5	8			所見レポートにて、検査画像に文字や図形のマーキングが可能であること。
29	5	9			該当患者の過去レポートがある場合、1操作にて過去レポートの参照が行えること。また、過去レポートの検査画像からも該当する検査画像の拡大表示ができること。
29	5	10			所見レポートにて、過去レポートの文書を1操作にてコピーできる機能を有すること。
29	5	11			個人情報保護対応機能として、ユーザーID、パスワードによるユーザー認証機能、ユーザー毎に操作することができる機能を制限するアクセス制御機能、操作の履歴をサーバ上のログに記録する監査証跡機能を有すること。
29	6				検査画像参照機能
29	6	1			当該患者の過去の検査リストを表示し、リストから選択した検査画像を同時に4枚まで表示させることにより複数の検査の比較表示が可能であること。
29	6	2			Windowsプリンターで画像を印刷することが可能であること。
29	6	3			画像のエクスポートが可能であること。
29	6	4			取込んだ眼科画像に対して、マウスの操作のみで画像の階調、拡大、回転、編集の操作が行えること。
29	6	5			データ格納用データベースとして、Microsoft SQL Server 2008R2相当以上のリレーショナルデータベース機能を有すると判断されること。
29	7				検査画像ファイリング機能
29	7	1			原則として操作はマウスのみで行えること。
29	7	2			各種検査装置から出力される画像データ・数値データをデジタルデータとして取得することができること。
29	7	3			データベース保護のため、データベースのバックアップが自動および手動で任意の場所に行えること。
29	7	4			画像データとして個別に保管されているデータを検査機器などを經由せず直接登録できること。
29	7	5			デジカメ画像の取込ができること。
29	7	6			検査データをスキャナーで取込むことができること。
29	7	7			利用端末別に検査結果入力用テンプレートの自動読み出しができること。
29	7	8			全ての検査データにフリーコメントが入力できること。
29	7	9			検査結果入力用テンプレートの修正変更ができること。
29	7	10			iPadにて視力などの検査データの入力ができること。
29	8				閲覧機能
29	8	1			院内のネットワーク上のすべてのPCから閲覧可能であること。また、複数のPCから同一患者の閲覧が可能なこと。
29	8	2			ファイリングされている画像データ・数値データなどの情報を基本的にマウス操作のみで閲覧でき直感的な操作が可能であること。
29	8	3			ローカルもしくはネットワークに接続されたプリンターから印刷ができること。
29	8	4			左右眼個別または両眼を切り替えての一覧表示ができること。
29	8	5			選択した任意の画像の比較表示ができること。
29	8	6			選択した任意の画像の拡大・縮小（20%～150%）表示ができること。
29	8	7			任意で選択した検査機器画像のみで一覧表示ができること。
29	8	8			一覧画像（サムネイル）の大きさは任意で設定できること。
29	8	9			一画面には、数値+画像の表示、画像のみ表示といった、レイアウトに関する設定が端末もしくはユーザー毎にできること。
29	8	10			一覧画面にて、時系列に対し降順昇順の入替えができること。
29	8	11			F A GやH R T などのタイマーをもっているものは、個別のフォルダ構成とし、時系列表示に切り替えが可能であること。
29	8	12			拡大画面にて、時系列にそって簡単に前後の画像の表示ができること。
29	8	13			拡大画面にて、任意の拡大率（20%～150%）で表示ができること。
29	8	14			また、前後の画像に移動しても拡大率を維持していること。
29	8	15			関連する検査数値、検査画像を画面内で同時に表示できること。
29	8	16			レフ、ケラト、眼圧値を時系列にて履歴表示ができること。
29	8	17			また、最新の検査数値を常に画像一覧画面にて表示ができること。
29	8	18			眼圧、視力値のチャート表示ができること。
29	8	19			動画データを拡大画面にて再生ができること。
29	8	20			動画データをiPadにて再生ができること。
29	8	21			患者の重要項目が入力でき、常時その内容が確認できること。
29	9				編集機能について

29	9	1		<p>画像データに対する編集機能（シェーマ）として、以下の機能を有すること。</p> <p>a) 回転／拡大／縮小、コントラスト調整、カラーバランス調整（白黒表示含む）、明るさ調整、反転表示（上下、左右）、ガンマ補正などの画像補正機能</p> <p>b) 入カペンサイズ変更、文字入力、消しゴム、トリミング機能、カラー選択などのお絵かき機能</p> <p>c) 不透明度設定などが可能なレイヤーなどの編集支援機能</p>
29	9	2		各画像に付けることが可能なコメントを画像に重ね合わせることができること。
29	9	3		そのコメント情報（コメント本文、座標、フォント種別、カラー情報、文字サイズ等）を、転送することができること。
29	9	4		相手側が受け取れない場合は、画像に合成して出力できること。
29	10			連携機能について
29	10	1		他システムとの患者属性情報の連携が標準仕様にて可能であること。
29	10	2		他システムに画像データ、数値データなどのすべてのデータをボタンひとつで転送する機能を有すること。
29	10	3		視野計（ハンフリー）とのID連携、眼圧自動登録機能、単一視野解析、視野変化解析、GPA表示、スクリーニング検査など視野計にて行われたすべてのデータを取込むことができること。
29	10	4		コメントなどを含める全情報を転送できること。
29	11			管理機能
29	11	1		分散環境下の検査画像データの統合が簡単にできること。
29	11	2		患者属性データの追加、修正、統合、削除などが直感的な操作にて可能であること。
29	12			その他機能
29	12	1		バーコードリーダーおよび、カードリーダーによる患者番号等のバーコード読み取り機能を有すること。